

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

特定非営利活動法人かながわアドバンスサポート

② 施設・事業所情報

名称：川崎市蟹ヶ谷保育園	種別：保育所	
代表者氏名：梅原 直子	定員（利用人数）： 90名（97名）	
所在地：川崎市高津区蟹ヶ谷339		
TEL：044-751-9040	ホームページ：川崎市	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日 昭和63年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：神奈川県川崎市こども未来局保育事業部		
職員数	常勤職員： 21名 会計年度任用職員 14名	
専門職員	園長 1名	
	保育士 20名	保育士 5名
	看護師 1名	
	栄養士 1名	
	調理員 1名	
	用務員 1名	
施設・設備の概要	保育室 7室	産明け児室含む
	給食室 1室	園庭 有
	沐浴室 1室	
	調乳室 1室	
	プレイルーム 1室	

③ 理念・基本方針

『川崎市公立保育所基本理念』

子どもの権利を保障し、未来を担う子どもたちの生きる力の基礎を育む保育

【保育目標】

「生きる力にあふれる子ども」

- ・心と体が健やかな子ども
- ・自分で考えて行動できる子ども
- ・自分や相手を大切にできる子ども

を園目標とし、

【保育方針】

○家庭や地域社会と連携を図り、乳幼児期の子どもの育ちを支援していく。

○子どもが健康、安全で情緒の安定した生活ができる環境を用意し、自己を十分に発揮しながら活動し、健全な心身の発達を図る。

○養護と教育を一体化とし、豊かな人間性をもった子どもを育成する。

○入所している子どもたちの保護者や近隣地域の子育て家庭へ子育ての支援を行い、共に子育てを行う。

○地域に開かれた児童福祉施設として、子育ての知識や経験・技術を提供していく。
を保育方針として、保育事業を進めています。

④ 施設・事業所の特徴的な取組

【立地および施設の概要】

本園はJR南武線武蔵溝の口駅から東急バスで蟹ヶ谷行き及びJR南武線武蔵新城駅から市営バス、東急バスで綱島行き「鷹巣橋」下車徒歩8分。裏手にはみかん畑が広がり、横には矢上川が流れる住宅地の、のどかな場所に立地しています。軽量鉄骨造り平屋ですが、前面に広い園庭があり、町内会がこの園庭を借りて夏祭りや餅つき大会を行うほどの広さを誇ります。昭和39年オリンピックの年に母子寮が廃止になり、保育園として改築し、現在の敷地1815平米、増築後の園舎床面積560平米、残り約1200平米が園庭となっています。定員90名<現在97名在園>の大規模保育園です。

保育室は0歳、1歳、2歳、3歳、4歳と5歳が年齢別となっており4、5歳児の間にプレイルームがあります。

保育時間が令和3年度から朝7時～夜8時まで延長されています。土曜保育もあり、地域のニーズにえています。

【園の特徴】

◇高津区「新たな公立保育所」のランチ園として地域への貢献

本園は川崎市が進める「10年戦略」の1つ、「子どもたちの笑顔があふれるまちづくり」を目指しての「新たな公立保育所のありかた」に基づき、保育園再編成のなかで高津区のランチ保育所として指定されています。センター園は梶ヶ谷保育園、ランチ園として津田山保育園が指定されています。保育園民営化を進めてきた川崎市では、各区に公立保育所として、センター園1、ランチ園2を有しています。民間保育園に対する支援の充実や指導監督の強化を図るため、現場でのノウハウやスキルを継承するために「新たな公立保育所」として、各区3園に「地域の子ども・子育て支援」「民間保育園等への支援」「公・民保育所の人材育成」の機能をもたせてあります。

本園では蟹ヶ谷地区担当として、これら3機能と役割を果たす多くの計画があります。

①地域に開かれた機能の拡充として、親と子どもの体験保育<親子でランチ・遊びの広場>、②人材育成の専門職講座<キッズひよこ、健康相談>、③民間保育園の支援<相談支援>、認可保育所、認可外保育所訪問、公開保育>の計画があります。今年は認可民間保育所延べ116園、認可外保育園53か所の訪問実績があります。公開保育には13園が参加しています。

今年はコロナ禍のなか、集団での交流ができなかったために、多くの各種イベントが中止になっています。

◇餅つき、ラジオ体操、夏まつりの会場に園庭を提供、地域との交流

近隣に橘公園や神庭(かにわ)緑地などがあり、豊かな自然に囲まれています。昭和の東京オリンピック開催の年にそれまであった母子寮が廃止され、その後に本園が開設され、町内会とのつながりが深いものがあります。本園の園庭が1200平米を越す広さを持つために、町内会と協定を結び、餅つき、ラジオ体操、夏まつりの3行事の会場として、本園の園庭を貸すことにしております。子ども達に日本の伝統に親しんでもらうメリットがあります。

⑤ 第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年9月28日(契約日) ~ 2023年1月15日(評価結果確定日)
受審回数(前回の受審時期)	2回目(2013年)

⑥総評

◇特徴や今後期待される点

特に評価の高い点

1. 貴重な「米づくり」の実体験 5歳児

本園の保育の特色になっているコメ作り、コメが小さなモミから成長して人の口に入るまでの全プロセスを、子どもに実体験させるカリキュラムがあります。モミの芽出しから始まって、ドロドロの土を作り、小さな苗を発泡スチロールに田植えし、草をとり、夏には小さな白い花が咲くのを観察し、青い稲になり、夏が終わるところから、茶色の稲穂になってゆく。稲刈りは1本ずつハサミで刈り取ります。小さな稲穂を取って、一つずつモミをむいて玄米にして、さらに精米して、白いコメにします。それを炊くグループとコメをとぐグループが2部屋に別れ作業します。炊飯器2台に入れ、そして炊きあがったご飯を、おにぎりにしてパーティを開き、喜びを分かち合うのです。この一連のコメができるまでの作業を、子どもたちは自分たちでやり遂げているのです。大人の指導があって、この難しい作業を、身を以て体験するのです。日本人の主食であるコメが大変な労力で出来ていることを子どもたちは実感しています。優れたカリキュラムです。子どもたちは自らの手を汚して稲穂に成長させ、刈り取り脱穀して、炊いて口に入れるまでを、大人の手をかりながらやり遂げています。その「やった」という達成感、自信は自分達が勝ち取ったものとして、子どもたちの得難い体験として残ってゆきます。

2. 発達相談支援コーディネーター6名の「おしゃべりタイム」保護者の不安を払拭

本園には発達相談支援コーディネーターの資格者が6名在籍し、各クラスに配置されています。増加する発達障害児で、どの保育所も対応に苦心しています。本園はコーディネーター5名〈園長除く〉は年間の計画を立て、保育の傍ら保護者の個別相談に毎月2回土曜日を利用して2時間ずつたっぴりと、2回の個別相談にに応じています。「地域に住むママ、パパと子育ての悩みについて、いろいろと話しができれば」と、この催しを企画したのです。地域に根差した保育所として行っています。園内では、事例をもとにカンファレンスと個別対応の取組を行い、情報の共有をしています。年4回のたより「子育て応援団」を出し、リーフレットも出し、気になる子の保護者向けの活動を活発に行っているようです。

3. 週刊「SDGs」の配布

クラスだよりの新しい形A4一枚の紙にびっしりとゴチック文字がはいり、写真が1枚もないクラスだよりの「SDGs」、今はやりのロゴに似せて「さくら組の、でっかい目標〈ゴール GS〉」を4歳児担任の男性保育士が、毎週発行しています。運動会の話、クリスマスプレゼントの話、夏祭りの山車で作ったドーナツと、チョコの年末ジャンボ級の抽選会など、保育にまつわる話題やクラスの模様をエピソードを交えて、毎週保護者へ配布しています。ウィットに富み、楽しい読み物が毎週提供されています。紙の一番下に「ご感想を」と書いてあり、読んだ保護者がすぐ反応してくるようです。担任の一方的な情報ではなく、保護者の反応を見ながら、クラスの情報を提供しています。今年度すでに26号を重ねています。1か月という長い期間ではなく、1週間という短期的な時間センスが受けているようです。

◇今後期待される点

保育アプリ「コドモン」の導入で保育士の業務が改善しつつあります。朝、夕の子どもの様子をコドモンで送信できれば最も忙しい朝、夕の時間が軽減されるからタブレット端末がクラスに配布されていないのでそれができず、今では園からの一方通行の伝達手段になっています。クラスに1台ずつあれば、業務の殆どは軽くなります。端末の配置が待たれています。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

保育の質や保護者の満足度の向上及び課題を認識するため、第三者評価を受審しました。受審にあたり、職員と意見を出し合い検討する中で、保育の現状を振り返ることとなり、自分たちが取り組んでいる業務の意味・意義を再認識し、今後改善すべき課題を知ることができました。今回、評価いただいた内容を受け止め、子どもたちがより良い保育園生活を送れるよう、また保護者の方に安心して預けていただけるよう、職員の資質向上に努めていきたいと思っております。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり